

三重大学 人文学部

法律経済学科

特殊
講義

「協同組合論」



大田 卓／みえ医療福祉生活協同組合 組合員活動部

医療・介護と協同組合

第7回（11月21日）：受講49名（受講生45名・聴講&スタッフ4名）

生協は組合員のニーズと願いを基礎とした助け合いの組織である。医療の現場は暮らしそのもの、治療と暮らしを支え合う医療が大切である。そのために地域との協同や仲間を増やすことが大事である。仲間が増えることで、つながりが生まれ、組合員のくらしや地域をよくしていける。組合員の声に寄り添い、誰一人取り残さない社会の実現のために尽力することが必要である。

【講義の主なポイント】

- ・日本の医療互助運動は、賀川豊彦の社会思想のもと1932年に東京医療利用組合が結成されたことを機に全国的に広がった。
- ・みえ医療福祉生協は、三重県内5つの医療生協が合併して誕生した。医療生協は、医療機関や介護事業所などを所有・運営し、組合員と職員の協同によって健康と生活に関わる問題を解決するため事業と活動をおこなっている。
- ・基本理念は、健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくるである。そのために、地域まるごと健康づくりや、地域住民と医療や福祉の専門家の協同、多くの人々の参加で地域に協同の“わ”を広げることが大事にしている。
- ・事業と活動の特徴は、専門家と組合員が協力して保健予防活動に取り組むヘルスプロモーションと、事業所利用委員会など組合員参加による民主的運営、班会の活動を通じた組合員の健康づくり、差額ベッド代を徴収しない無料低額診療事業の実践である。
- ・組合員一人ひとりの願いや想いを実現するために組合員活動がある。組合員3人以上で班会を結成している。班会は、健康づくりの場、地域でつながる場、支え合う場、地域ネットワークの場である。班を地域で広げていきたい。
- ・くらしを取り巻く環境は変わってきている。健康寿命を延伸し平均寿命との差を縮めることが大切であり、地域包括ケアシステムの構築が大事である。
- ・医療の場は地域の方々の暮らしそのものである。治す医療から治し暮らしを支え合う医療が大切である。組合員の声から見えてきたものとして、誰も取り残されない支え合いのネットワークと、協同の社会づくりが必要である。
- ・地域の課題は、組合員や地域と一緒に解決していかなければならない。

第7回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

Aさん（3生）

「無差別・平等の医療」にとても魅力を感じました。

姉が持病を患っており、小さい時から定期的に入院を繰り返しており、治療費よりもベッド代の費用が高く、負担になっていたことを聞いたことがありました。組合員の出資が、1人1人の暮らしを助けてくれるものだと思いました。

「誰とモ食堂」のような取り組みを聞いて、驚きました。

子ども食堂については、よく取り上げられています。身近でこのような活動があり、とても興味をもちました。

大田さんのお話、とても聞きやすく勉強になりました。

自分が知らないことをたくさんあったので、インターンシップにも参加して、少し視野を広げたいと思いました。

Bさん（2年生）

みえ医療福祉生協の紹介の中で、様々な形での組合員の参加が行われていて、組合員が活動の主体になって活動していることは大切な点と感じました。組合員自らが生協を通じてまちづくりをすすめることにより、より自分たちの願いや、困り事に沿った活動を行うことができ、地域のネットワークを広げるきっかけになるということは、地域に近い生協だからできることだと思つたので、こういった活動は大事な点と思いました。また医療・福祉のサービスを一方的に提供するだけでなく、地域のコミュニティが広がるような活動や、たすけあえるような仕組みをつくることにより、普通の医療サービスとは異なり、地域の活性化にもつなげることができると思いました。

また今日の講義を聞き、課題として組合員の世代交代をあげられていて、全体的に少子高齢化が進んでいる中で、どう対応して事業を行っていくかが今後の生協で解決すべきことだ点と思いました。

Cさん(2年生)

協同組合は組合員を対象にして、消費者だけでなく農業、漁業に携わり、いろいろな人々にも支援・サービスを行っていることを今日の講義で学びました。今日の講義では医療生協という機関があることを初めて知りました。日本は海外と比べると医療保険制度が充実しており、健康寿命の高さから医療分野において日本はとても優れていると思います。しかし少子高齢化や地域格差により、充実した医療保険制度が整っていない地域においては、十分な医療・福祉サービスを受けられない人がいると思います。そんな人々のために医療・福祉サービスを提供しているのが医療生協だと思っています。病気にかかったあとの医療をカバーするのでなく、病気にかからないように保健予防活動の中心に取り組んでいることは、ここからの日本社会でもとても大切なことだと感じました。また、民間の病院とは違い差額ベッド代をとらない、無料低額診療事業を実践していることが低所得層や経済的に困窮している利用者にとって良い取り組みだと感じました。

Dさん(2年生)

医療福祉生協は何か災害が起こった時、それをきっかけに作られていました。この考え方が江戸時代からということに驚きました。やはり、病気やケガは命に関わる部分でもあるので、貧富による大きな差は問題として昔からあったんだなと思いました。

生協は本来の目的だけに限りなく出資者のことを第一に考えられているスタイルがとても良いなと思いました。こういうところで働いたら充実した人生を送れるだろうと思いました。

認知-利用-参加-参画は、認知が一番難しいところだなと感じました。「知ってもらえれば…」というものはこの世の中にたくさんあると思います。私もある団体が活動しているのを知り、わかるようになりたいです。なので私は、色んなものを知ろうという意欲を常に持ち、知った上で取捨選択していきたいなと思います。

Eさん(2年生)

県下5つの医療生協が合併して、「みな医療福祉生協」が誕生したのは2011年
のことと知りまして、これは東日本大震災が起きた時でもあるので、震災が合併の
きっかけの一つでもあるのかなと思いました。

事業所でも様々な種類があることを知りまして。「診療所」というと、病気を治す場という
イメージが湧いてきたが、入れ代りではなく、地域の人々が病気を治す場でも気軽に集まれる
場もあるということを知りました。薬を使わずに治療する人も、人とお話し合ったり話
したりする方がより元気になるのではなかなかなと思いました。

「医療福祉」だからなのか、健康寿命を延ばすなど、高齢者の方を対象とした取り組みや
施設が多かったですが、働く若者向けのうつ病防止等の取り組み等もしてほしい
なと思いました。また、若者向けの取り組みが高齢者向けのものに対して少ないのは、
組合員の年齢層における若者の割合が少ないからなのかなと思いました。

Fさん(年生)

高齢化と伴って、この現代において、介護・医療という分野がとて
大目になってきており、今回の講義で改めて感じることができました。

医療福祉生協の事業と活動は、市民参加のまちづくりを通じて、いかに
地域の人々をつなげていくことができて、より深い関係と協働と築いてい
ける信頼などの関係は、社会作りが大切だと感じました。

組合員の年齢層が高齢化の課題もあり、現状で、世代別の取り組みの
重要性を感じました。また、組合員の活動に「陽だまり」の活動があり、
映画を見たり、おしゃべりしたり、子育て支援なども行っており、誰か気軽に
来れる場所と設けて、人と人がつながる場所をつくることで、地域の活性化に
つながることができると感じました。

この高齢化などの社会問題や課題視を通して、人と人との役割を
果たしている組合員の存在はとて大切だと感じました。

Gさん(4年生)

生協をはじめとして、地域住民のために、様々な活動をして

感じている場となり、みんなが協力しあうグループは非常に重要で

大切にしなければいけないと思うが、私も含めて、特に若者は、そのような
活動について知らない、興味を持てないという人が多いように思います。

組合員がまだ少ないというお話しもありましたが、そういう人にとっても

存在を知ってもらうことが、興味を持つ、もらう、活動に参加してもらうこと

は難しい問題だと思っています。私もこの講義を取るまでは、正直興味はなかったのが、
地域の一員として、助け合いの組織に参加したいと感じました。